



長野高校
1 学年
SGH 通信

有 隣

第 1 号
2016 年 4 月 13 日 (木)

◇タイトルの由来

徳は孤ならず 必ず隣有り 『論語』

「自分だけでなく自分を含む集団全体の本当の幸せを思い、そのために自分がどうあるべきかを考えて動く人は、決してひとりぼっちになることはない。(たとえ一時、孤立することがあったとしても)必ず理解し、仲間となる人がいる。(だから、勇気をもって発言し、行動しよう)」 解釈：白鳥

『論語』は、今から 2,500 年ほど前の中国に生きた孔子（本名は孔丘、「子」は「先生」という意味）とその弟子たちが言った言葉や行いを記した本だと言われています。孔子は初め政治家として活躍しましたが、社会秩序が崩壊し実力がものを言う戦国時代に向かう中で彼の人道主義は現実政治に適合できず、政治を離れて教育に力を注いでいきます。

古典は奥が深いため、様々な解釈が可能です。タイトルの由来の文言も、まず「徳とは何か？」だけでも議論が尽きませんので上記は一つの解釈です。ところでみなさんは「自分を含む集団」をどのスケールで考えますか？

より「グローバル」に考える方向を目指したいですね。

さて、孔子には次の言葉もあります。

君子は和して同ぜず 小人は同じて和せず

「徳ある人は、仲良くやっ払いこうとはするが相手にただ同調したりはしない。徳のない人は、相手にただ同調するだけで本当の意味で協力し合うことはない」

“空気を読む” ってどちらですか？

SGH 活動では協働活動がたくさんあります。「和」とは何か、考えていきましょう。

